

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	学び舎with穂高教室			
○保護者評価実施期間	R7年 2月 20日 ～ R7年 3月 10日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	R7年 2月 20日 ～ R7年 3月 10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・5領域を踏まえた活動を満遍なく行うことができるように、月のカレンダーを斜め割にして予定をたてている。	・活動の狙いを細かくたてて、同じ活動内容でも、その日の5領域に沿ったフィードバックができるようにしている。	・休日でも5領域が偏ることのないようにさまざまな活動をたてる。
2	・個別支援計画に沿った内容を確認することで、子どものことを十分に理解するように努めている。	・前日の振り返りを毎日行い、反省点や疑問点を全員で出し合う。	・出た意見を次に生かすことができているかの確認。また、どのような効果があったのか意見交換。
3	・休日の活動を取り入れることで、社会性を育てるとともに通所への楽しみを見出している。	・電車の乗車体験や買い物体験を継続的にやっている。	・自発的に取り組むという教室全体の課題に沿って、どのような買い物体験にするか考える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者会を行っておらず、保護者同士の交流の場がないこと。	・コロナ禍に事業所が始まったこともあり、開催のタイミングが掴めなかった。	・希望者に向けて保護者会を実施する。
2	・室内の広さが充分ではなく、利用人数が多い日は、狭さを感じる。	・部屋がひとつしかないので、相談室・職員室・活動スペース・静養スペースをつくることに困難がある。	・備品の数や環境整備に配慮して、できるだけ広く活動スペースを確保できるようにする。
3	・専門職員がおらず、保護者のニーズに対応できないことがある。男性職員がおらず、同性介助に対応ことがある。	・応募者が少なかったり、定着率が悪いなど、人数の確保ができない。	・就職説明会などに参加し、業界のアピールをする。